慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	O. Most: Die Schuldenwirtschaft der deutschen Städte. Jena 1909 ; F. Zadow: Der ausserordentliche Finanzbedarf der Städte. Jena 1909
Sub Title	O. Most: Die Schuldenwirtschaft der deutschen Städte. Jena 1909 F. Zadow: Der ausserordentliche Finanzbedarf der Städte. Jena 1909
Author	星野, 勉三
Publisher	三田学会
Publication year	1910
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.3, No.6 (1910. 6) ,p.761(133)- 766(138)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新著批評
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19100615-0133

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ンゲン(Ihringen)、ゲッフインゲン、(Göhingen)の如き地名の構成とは其の根本的關係を一にするや否やを解決するの責任を有するものなり。

古代獨逸の典型的族名はアギロルフインギ、ハヒリンガなりこの點に關して最古の證憑を供給せるLex Bainariorum によりて知らる、又英吉利の(P〜wulf)叙事詩より二三王族の典型的族名を得、卽ちウエグムンヂガス、はレトリンガス王家及び同代のハイグリックと同族たる貴族なり、又同資料に丁抹スキルヂンガス王朝、瑞典のスキルフインガス朝等の名を見る、佛蘭西のメロビンガ王朝時代には東ゴート人の間に中古南方獨逸語の史詩にアメルンゲと稱せる王族ありきヴエダの古代英國敎會史にケントのエスキンガス朝並ニ東アングリアのウルフインガス朝の名あり、又パウルスヂアコヌス Panu sPiaconus のランゴバルド史にランゴルドのソトリンギ朝あり、彼と同代のアインハルトはカルヽ大帝の後裔をカロリンガと云へり、又此王族々名の典型は古代スカンヂナビアの口牌中にも屢々見る所なり。

斯く列擧したる所すべて王族の族名なり、然も余は玆に相應の資料を擧示したる者なれば以て典型的族名が如何に高貴の家族殊に王族に限らるゝやを知可きなり、是れ敢て民族遷移時代に於ける自由なる獨逸人が一の固有の族名を有する一族に屬したりとの證憑となるものにあらず一族の者は名の頭字を等うせしめて以て同族の結合を表明せんとしたり、例へばヒルデブランドの古詩に於ける Heribrant Holtibrant, Hadubrant の如き又 Lex Brungundionum に於ける Gibica, Gundahrins, Godomares, Gislahrins 等の如き是也頭字等一こそは固有の族名を失ひたる場合に於ける同族的結合の有力なる徵表たりしなれ。

由是觀之エスリンゲン、ツットリンゲン、ロイトリンゲン。ヘヒリンゲン、エットリンゲン、レッフインゲンの如き地名と族名構成との關係は容易に之を了解し得べし。而も決して此關係を偏重視することある可からず、地名がゲルマンの人名に基けるとを知り得可き場合は例外なり。抑も民族遷移時代に於けるゲンマンの人名中には、一二語より成れる者少なからず例へば sigifrid は sigi(sieg) と fridu (Friede) とより、Guntheri は gund (kamp)と heri (Heer) とより、Hadubrant は hadu(kamp)と brant (schwert)とより、Diotrih は Diot と nih とより成れる等なり。然るに二語より成れる人名に基き而して ing を帶ぶる地名の數は極めて僅少なり、ワルテルスハウゼン、グンテルスハウゼン、ウオルフラムスハウゼン、ヒルドブルグハウゼン、アルブレヒトハウゼン、ルドルフスハウゼン、ラドルフスハウゼン、ウオルブランズハウゼン、ウオルブレヒツハウゼン、リツポルズハウゼン、シーボルツハウゼン、の如き古地名は存するも ing を語底とし而して二語より成れる人名に基ける地名は少し又ヘルマンフイッシヤーが其の原語を以て不可解となせしチユウリンゲンの如き名辭の言語學上の意義如何の如き之が解決は寔に至難の事に屬す。

新著批評

O. Most: Die Schuldenwirtschaft der deutschen Städte. Jena 1909.

F. Zadow: Der ausserordentliche Finanzbedarf der Stadte. Jena 1909.

往時の財政學に關する著述は只中央政府の財政を論ずるに過ぎざりしが、近來の著書は地方財政をも併はせて論ずるもの少なからず、特に Richard v. Kaufmann が一九〇六年 Frankenstein-Heckel の叢書中に Die Kommunalfinanzen (地方財政論)と題して、約九百頁の大册を出版し、英、佛、普の地方財政に關する、比較研究の結果を公にせるが如きは、以て如何に近來此種の研究が重要視せらるゝに至れるかを證するに足らん。

地方財政中都市財政の研究は、最も興味ある事

業なり、夫れ都市の膨張は各國共通の現象にして、獨逸の如き新興國に於て特に甚だしく、隨つて其職務の增加の如きも亦已むを得ざる所なり、特に往時の經濟學說は、公法人の職務を頗る狹く解釋し、若し都市が生產事業を經營するが如き事あらんか、之れ生產資料を公有にする社會主義的政策なりとして排斥せしも、此の如きは十八世紀以前の靜止的時代に於ては兎も角も、現今に於ては到底墨守す可からざる學說にして、市民の生活を愉快ならしめんとせば、大に都市の助力に待つは事實上已むを得ざるに至れり、されば上水下水の如き、電車運河等の交通機關の如き、又は瓦斯電燈事業等の如きは、多く都市の經營する所にして、其他學校消防等の設備の如きは、皆都市の力に依らざる可からず、又病院劇場音樂堂等の如きも、都市に依りて經營せらるゝもの少なからず、此の如く都市の職務は激增せるが故に、之を遂行せんと欲せば多額の一時的支出を要し、之れが支辨は結局公債に依らざる可からざるが故に茲に市價の

膨張を來たし、以て之が研究は財政學上最も興味ある問題の一となり、我國の社會政策學會の如きも、今年の大會には、此問題に付て討議せんとするに至れり。

先きに述べたるが如く、新興國なる獨逸に於ては都市の膨張特に甚だしく、其財政に關する研究は、五六年以來、或は小冊子として、或は雜誌の論文として、屢々發表せられしも、恨むらくは其統計的資料に於て缺くる所あり、從來各都市は皆各自の統計を出版せしも、獨逸全都市の財政狀態を明らかにす可き包括的統計を缺きたり、然るに一昨年の後半に於ては、此缺點を補はんが爲めに、大藏省統計及び數種の半官的統計出版せられ、又之を基礎として市債論をなす者を生ずるに至り、余は表題に揭げたる二書を發見せしかば、今其內容の概略を紹介せんとす。

モースト氏はデュッセルドルフ市の統計局長にして、都市財政に關しては著述論文等數種あり、特に氏は一昨年獨逸都市連合會の出版せる「一八九七—一九〇七に於ける獨逸都市の公債募集」、なる半官的統計書の編纂者にして、此問題に關しては造詣深きが如し、今余輩が紹介せんとする「獨逸都市の遣り繰り經濟」は、此統計を基礎として成り、且つ之を說明せんと試みたるものにして、敢て議論の珍とす可きものなしと雖も、强て其長所を求むれば簡單にして明瞭なるにありと云ふ可きか。

氏の報ずる所によれば、獨逸國人口の五分の一は、人口十萬人以上の都市に住する者にして、今千人中、人口二千以上の町と以下の町とに住する者の、比を見るに左の如し。

	人口二十人以下の町に住する者	人口二十人以上の町に住する者
一八七一年	六三九	三六一
一八八〇年	五八六	四一四
一八九〇年	五三〇	四七〇
一九〇〇年	四五七	五四三
一九〇五年	四二七	五七四

之を他の各國に比ずれば人口二千人以上の町に住する者は

獨逸	五七四	佛蘭西	五一〇
墺太利	三八三	露西亞	三一四

なりと云ふ。

此の如く都市が膨張したる結果として、Aufgaben と Ausgaben 卽ち其職務、及び之を遂行するに要する支出を增加したり、而してモースト氏は數字を以て各種支出の增加を說明せりと雖も、繁雜なるが故に茲には之を略す、扨て此增加せる支出、特に臨時支出を支辨せんとせば、公債に依るは已むを得ざる次第にして、其增加の勢は左の如し。

人口一萬人以上の獨逸都市の公債（百萬マルクを單位とす）

一八八一年	七七一、八	一八九一年	一、四〇〇、五
一九〇一年	三、〇九七、七	一九〇七年	五、二九五、七

之を住民一人に割當つれば

人口一萬より二萬五千迄の都會にては			一四六、三九マルク
同 二萬五千	同五萬 同		二〇三、四七
同 五萬	同十萬 同		二三七、〇九
同 十萬	同廿萬 同		二八七、四一
同 廿萬	以上（伯林を除く）同		三四一、五四
伯林			二一〇、二九

此等市債應募金の泉源は如何と云ふに、其債權者の重なる者は、其市の市立貯蓄銀行、興業銀行普通銀行、官私の保險會社等にして、個人の應募者は僅かに二分位の割合なり。

市債の時價の如きは、國債よりは二三分方安きを常とす、而して都市と國家とにては其信用に大差ある事實は、以て時價の相違を來たせる一大原因と認む可きものなれども、而かも需給の不適合も亦此結果を生ずるに與て力あるものと云はざる可からず、卽はち發行額は前掲の如く益々增加するにも拘はらず、其需要は其市の住民のみに限らるゝ傾あるなり、故に市債の信用を高め併はせて其市債を引上げんとせば、各市皆各自に市債を發行するが如き方法を避け、之を取り纏めて發行す可く、此の如くんば、其金額大なるが故に利子も安く、又其需要者も各市の住民のみとは限らず頗る多かる可きが故に、地方信用の集中は目下の急務なり、其如何なる形式に於て集中するかは別問題として、兎も角も之を行はざる可からずとはモースト氏著書の結構なり。

ツァードウ氏の何人なるかは明かならず、又最近の獨逸人名辭書 Wer ist's にも掲載なきを以て見れば、或は新ドクトルなるが如く、其著述「都市の臨時費」も質及び量に於て、ドクトル論文と見ゆる節多し、而して此書はモーストの書に數箇月後れて、昨年末に出版せられたるものなり、其論ずる所頗る興味あり、理論の方面に於ては確かにモースト氏の著書に勝る所ありと雖も、其所論皆參考書より來れるが如く、所謂 Sachkennerblick を以て觀察せりと認む可き點少なきは遺憾とする所なり。

氏は都市臨時費の性質を吟味し、其中數種は必ず數年毎に生ずるものにして、純粹なる臨時費と云ふ可からず、故に公債を以て之を支辨するが如きは不當なりと云はざる可からず、されば租稅收入を以て基金を作り、之を以て此の種の支出を支辨するに於ては、事業の飢起を防ぎ、以て財政の基礎を强固ならしむるの効ありとの說を生ず可し、然れ共基金必ずしも有効なるものにあらず、

卽はち此の如き金額は、之を租稅として徵收し國庫に藏して將來の使用を待つよりは、却て之を徵收せずして國民經濟に放置し、以て生產事業に從事せしむれば其利益大なる可く、特に之を基金となせば、必要を待ちて後之を使用ずるが故に、假令利益を生ずるとも此の如き利益は將來的なり、然るに國民經濟をして之を其儘使用せしむれば、其之より生ずる利益は現在的なるが故に、基金の蒐集には又弊害の供なふ事を忘る可からず、且つ大規模の事業を起こすに當たりては、到底租稅收入の剩餘を貯蓄したる、基金の如きものを以て之を支辨する事能はず、其公債に依るは實に已むを得ざるなりと論せり。

市債の總計及び其一人當りに付ては、普魯西の大都市二十に付きて之れを調査し、左のく報如せり。

	市債總計（百萬マルク）	一人に付き（マルク）
一八四九	三九、六	三二、五
一八七六	二二〇、八	八七、五
一九〇五	一、一九四、九	二一三、四

市債を利子の方面より見れば、三分半利付のもの最も多く、四分之に次ぎ、三分又は五分は頗る少し、而して一九〇五年以前は、多く三分半利付のものを募集せしが、以來一九〇七年迄は、金融市場好良ならざりし爲めか、四分利付のもの最も多く發行されたり。

其償還の如きは、國債の如く無期限等の條件を付す可からず、之れ市債を以て起こせる電車瓦斯等の事業は、現今は其需要多しと雖も、數十年後には、社界の狀態が如何に變ずるや之を知る可からず、又電車の如きは不用となり、瓦斯の如きは全然異れる方法に依りて之を作るに至るやも計る可からず、故に此種の公債は三十年位にて償還す可く、特に毎年の償還割合を確定し、之を斷行するに於ては、元金は益々減じ、隨て其利拂も減ずるが故に、之に依りて節約したる剩餘を償還に使用するに於ては、其完濟の期比較的に早かる可く四分利付公債なれば、左の年限を以て償還し盡す可しと云へり。

毎年元金の二厘五毛を償還すれば　七二、二四年にて完濟
同　一分　〃　四一、〇三同　同
同　二分　〃　二八、〇一同　同
同　三分　〃　二一、六五同　同
同　五分　〃　一五、〇九同　同
同　八分　〃　一〇、三四同　同

氏は終はりに臨んでモースト氏の如く、市債集中問題を論じ其効果を述べたれ共、獨逸國當時の金融市場に於ては此方法に依るも利する所少なく、又近き將來に於ては、市債の發行は分散主義に依るの外なからんとの結論を與へたり。

（星野勉　三）

三田學會記事

史學會例會

同會第一回例會は去月二十八日午後一時より慶應義塾大學第二十六番講堂に於て開き、先づ幹事の開會之辭に次ぎ、小澤愛圀氏は『德川初期に於ける日韓關係』と題し、對馬の經濟狀態より說き起し幕府創立以前の兩國關係、十年朝鮮使者の伏見に於ける家康との謁見、十一年の國書問題、十二年の朝鮮信使、十四年の國書問題已酉約條等の事より、元和三年の聘禮に到るまで詳細に之を論述し、次で阿部敎授は『宗敎改革時代に於ける獨逸の經濟狀態』と題し、先づ宗敎改革時代に於ける獨逸の經濟狀態は甚だ順境を失せりとの、前提より本論に入りて、當時 Fugger. Welser の加き事業家の獨占行はれたるを以て物貨は日々騰貴し、而も其前時代より平均二三割の高價を來し居たるが故に細民は其日の生活に追はるゝ如き狀態に陷り不平滿々たれども、政府亦之を如何ともなす能はず、Luther か如きも大に其不平を鳴らし從て百姓一揆なるものが宗敎改革にも助力を與へたるや明なりと論じ、要するに此時代の經濟狀態は正に宗敎改革の起る原因と見ても不可なけんと結びたり、散會したるは午後五時にして、當日は田中、川合、阿部、神戸、廣瀨、の諸敎授を初め學生多數の來會ありたり。（を、あ）

理財學會例會

五月廿八日理財學會例會を圖書館大廣間に開く、來り會するもの五十五名、午后七時より講演を開始す。幹事の紹介を以て永井早大敎授は滿韓集中論なる演題を掲げて、大略左の如く講演を試みたり。

殖民の原因を以て生活の困難に歸するに反對するものは歷史に拘泥せるものにて十九世紀以來パンの壓迫によりて移住を企つるもの殊に多きを見る、之に對する國家の態度を見るに內國に於ける生產力の減少を理由として英獨に於ては嘗て移住を禁止したり、我國にもかくの如き傾向あれども生產力は結局窮なく恢復せらるべきのみならず移住民の海外に於ける內國品の需要を增加すべきを以て歡迎すべきもの、盛なる儘に放任すべし之に二種あり、分散せしむると集中せしむると卽ちエミグレーションとコロニゼーションと是なり、後者には殖民地の施設に對する財政上の負擔多きに對して前者は渡航にも便に、財政上にも負擔多からずと雖も次の如き不利益あり、（一）生產力の最も盛なる國民を失ふ、（二）低利の外國資金を以て廉價なる移出勞働を用ひしめ內國工業を驅逐す、（三）移民は外國化するを以て本國品に對する需要を增加せず、（四）移民の成功は離化を要す本國との戰爭起らんか、祖國と戰はざるべからず、故に近年は各國共に移民を抑制し勞力範圍に人民を集中せしむとす英國の如きは都市失職者を送て殖民地を開拓せしめ帝國問題と社會問題とを同時に解決せむとす。

滿韓の地遺利多く且地位眞好にして我國に對して經濟上の未來を有す、人口稀薄にして未開の可耕地數百萬町歩、韓國の農產と南滿の鑛物とは甚だ有望なり、然るにこの遺利を捨て、南洋を說き南米を稱す、何ぞ誤れるの甚しき、日韓合邦は抑末なり唯急を要するは國民を滿韓の地に集中して經濟的基礎を固むるにあり。

永井敎授の講演終るや福田敎授代て羅馬の商事會社なる演題の下に一場の講演あり、概要左の如し。

羅馬（今の羅馬府にあらず）は今日の文明の源泉にして商事會社亦これより發したる流の一なり、商事會社とは必ずしも商を營むものの謂にあらず、營利會社の意にして、農も工も共に商事たるに洩れず、近來は會社に關する法學者の觀念稍變じたれども從來大多數の學者は商事會社に就ても羅馬法を師とし會社法理を說くに自由契約を以てせんとせり、然るに經濟上より研究する時は商事會社は羅馬の經濟生活に當て敢まず、羅馬法とは相容れざるやに思はる、羅馬の會社はソチエタスと稱し當事者間にのみ有效なる契約にして他人に之を對抗するを得ざりき、其初鑛山鹽山の開拓、海外貿易、租稅受負に關して生じたるものにて當時羅馬には工業（市場生產の意に於ける）なく、從て工に關するソチエタスはなかりき、今日の商事會社は名は商事會社なれども實は工事會社なり（補助的商を除けば）、ソチエタスと今日の商事會社とを同一視するは事實に基かざるものなり、ソチエタスは貸借の進化にして資本は貨幣のみ、勞働の